

働き方改革を推進!



## 「社員間コミュニケーションの活性化」で働きやすい職場を実現、男性育児休業の取得を促進

株式会社ティー・アイ・シーは、主に公共分野、医療及び流通・金融分野向けのシステム企画・設計・開発・保守等の事業を行う、約120名のシステムエンジニア(SE)が活躍する中堅企業です。社員全員が働きやすい環境を整えるため、これまで規程類の整備を行っていました。ここ数年で子育てをする社員が増え、環境整備を更に進めようと考えていたところ埼玉県の「アドバイザー派遣制度」を知り、取組を進めることになりました。

### まずは、従業員満足度調査で現状把握

「社員全員が働きやすい職場」を作るため、まず従業員満足度(ES)調査を行って改善項目を把握しました。そして、全社員を対象にワーク・ライフ・バランス研修やワークショップを開催して意識改革を行うとともに、働き方の見直しに対する会社の姿勢・本気度を伝え続けました。

以前から、短時間勤務や時間単位の有給休暇等の制度により、育児・介護がしやすい環境を整えてきました。さらに、多様な働き方を選択できる制度の一つとして、令和元年

4月からコアタイムを設けないスーパーフレックス制度も導入しています。活用してもらうためには社員同士が仕事をフォローし合える関係と活用しやすい雰囲気、「お互い様」の意識が必要です。

### 関心を持ち合い、残業時間を減少させながら生産性を向上、

そこで、社内のコミュニケーションを活性化するため、会話のきっかけや共通の話題づくりとして数々の施策を導入しました。社員間で顔の見える関係構築のための人事管理システムを導入したほか、おやつ会議、ランチ会等の補助を実施し、令和2年度にはサークル活動の実施を検討しています。

そのほか、直接役員に自分の思いを伝えることのできる自己申告制度を設けています。職場でのしがらみがなく直接役員と話すことで、早い段階から個別にフォローすることが可能です。



社員同士の会話で仕事をスムーズに

こうした取組により、1か月当たりの平均残業時間が平成29年度の27時間から平成30年度には25時間に減少しただけでなく、利益倍増を実現しました。

### コミュニケーションの活性化で男性育児休業取得にも結びつく

社員同士の交流が活発になることで、お互いの事情が分かりフォローし合える風土に変わり、男性育児休業の取得にもつながりました。男性の育児関連での制度利用者は今まで4名出ています。育児休業取得は、管理職1名が10日、一般職1名が2か月取りました。また、管理職2名が1か月間の短時間勤務を選択しました。そして、男性の育児休業取得者増加に加え、育児時間をしっかり確保するためには、働きやすい環境を整えるとともに生産性を向上して労働時間を削減していくことが必要だと考えています。介護休暇日数の付加も検討中で、社員が増えていく中、多様な働き方を選択できる制度を更に充実させて、「誰もが働きやすい会社」にしていきたいです。

### 今後も積極的に様々な施策を導入

今後、大手企業と肩を並べていくためにも、離職を減らして社員を定着させ、技術者を育成することが重要です。そのために、キャリアパスや人事考課制度等を見直す予定です。

また、令和2年度から新入社員の配属について、各グループの責任者が自身のグループをアピールし、募集・勧誘する方法を取り入れる予定です。グループによって分野や開

発内容、仕事のやり方が違うため、配属前に知る機会を設け、「自分のやりたい仕事と違う」ミスマッチによる離職を事前予防できると考えたからです。

今後も継続して社員の声を集め、社員全員が働きやすい環境を作っていくために、コミュニケーションの活性化ツールとして社内報を開始し、令和2年度からは、社員的心と体の健康及び生産性の更なる向上のために、健康経営に係る施策を始めていく予定です。



育児休業を取得した高橋さん

### 男性育児休業を取得した高橋さんの声

育児休業制度があるのは知っていましたが、自分が取れるとは思っていませんでした。上司に勧められたこと、同チームの課長が10日間取得していたことで、「よし、取ってみよう」と2か月の取得を決めました。出産後最初の3か月が重要だと聞いていたため、生後2か月目から育児休業に入りました。当初は収入減を心配した妻も、休業中にはいろいろ頼ってくれました。産後うつを患って眠りも浅い妻を、そばで支えられて本当に良かったです。休業中に勉強して、情報処理の上位資格にも合格できました。また、ありがたかったことは2か月の間に一度も仕事の電話がなかったことです。上司の理解とフォロー、同僚の協力のおかげです。初めての子育てを通して「育児は本当に思い通りにならない」ことを学びました。今後はスーパーフレックス制度等を活用しながらメリハリをつけた仕事で早く帰宅し、育児に更に参加していきたいです。